

保健医療介護コーディネーター事業 —多職種連携研修会の開催状況—

1 開催状況

- (1) 日 時 令和5年9月5日(火) 14:00~16:00
- (2) 場 所 東予地方局7階大会議室
- (3) 対象者 西条保健所管内の認知症対応型共同生活介護事業所の管理者等職員及び訪問看護ステーションの看護師
- (4) 参加者 合計 32名
(所属別) 訪問看護ステーション13機関・17名、グループホーム12機関・15名
(職種別) 看護師16名 介護福祉士9名 介護支援専門員4名(うち2名介護福祉士(兼))、その他3名(うち1名管理者)

2 多職種連携研修会の内容

(1) 目的

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への位置づけ変更に伴い、重症化リスクが高い高齢者が多く生活している高齢者施設と医療機関との更なる連携強化が求められており、地域包括ケアシステムの構築を目指す取組みの一環として、平時からの感染対策の徹底及び、患者発生時の相談対応や急変時の往診依頼等医療機関との連携による適切な療養体制の確保を進めることを目的とする。

(2) テーマと目標

- (テーマ) 高齢者施設等における感染予防対策・医療連携・看取り介護の体制等について
(目標) ①感染症対策に必要な知識やノウハウ(PPEの着脱指導等)の理解を深める。
②施設内療養において、病状悪化時等必要時に医師や看護師による相談や医療支援を確保できるように、医療機関等との連携を図る。
③本人・家族の望みを尊重し、グループホームでの看取り支援の取組みを進める。

(3) 内容

① 講義・実習(PPEの着脱等)

「感染対策をしたのに、なぜ新型コロナウイルス感染症は施設内で拡大するのか」

講師 住友別子病院 感染対策室 主任 藤井 克匡

② 講義「医療ニーズに対応できる療養環境の整備や看取り支援について」

講師 有限会社 エンジェル・コール 代表取締役 越野 文枝

3 研修会の評価と今後について

(評価) 研修会終了後にアンケートによる評価を行った。(回収率は97%)

- 評価項目は以下の4項目。全ての項目において9割以上の者が高い評価をしていた。
 - ・学びを今後の医療機関等関係機関との連携に活かすことができるかという活用度
 - ・本人及び家族の望みを尊重した看取り支援の取組みの推進ができるかという活用度
 - ・対象者の支援の役立ち度
 - ・研修会内容の満足度
- 自由意見・感想では「感染予防に対する意識が高まった」、「緊急時や看取りの対応について改めて気をつけること等参考になった」、「家族や本人が満足いく看取りを行うためにコミュニケーションを十分取ろうと思った」、「グループホームのあり方など再確認でき、医療等との連携の在り方も分かった」等。今後の要望として「医療介護連携に関する症例検討等」の声があった。

(今後について)

- 地域包括ケアを深化させていくためにも多職種連携はより重要である。今後、様々な関係機関・団体と各機関の取組みの情報共有や、地域課題及び各機関の役割について意見交換を行い、表出した課題に対応していけるよう、多職種連携研修会のテーマや研修会以外の新たな取組みについて、検討していきたい。